

科 目 名	地学概論 2				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	宮嶋 衛次		単位認定責任者	宮嶋 衛次	
実務経験の有無	無				
実務経験のある 教員名および授 業の関連内容					
授業科目の概要	我々が暮らすこの地球は固体地球と水圏、気圏からなっており、その意味において、地球科学は広い領域で多岐の分野に及んでいる。本授業では、地学概論 I に続き固体地球の領域である火山活動と災害をはじめ、気圏、水圏、さらには太陽系・恒星・銀河のシステムについて学んでいく。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 火山活動と災害について、自然と人間生活の関わりからの観点から説明することができる。 2. 日本の気象について、地理的な観点から説明することができる。 3. 地球の温暖化について、科学的・社会的に考察し記述することができる。 4. 天体の運動について、天動説的な視点と地動説的な視点とを対比して説明できる。 5. 太陽系の天体について、文献などを調べてプレゼンテーションすることができる。 6. 恒星と宇宙の進化について、時間的空間的な変化を説明することができる。 				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20 %	小テスト		
	専門知識	25 %	小テスト、レポート、プレゼンテーション		
	倫理観	5 %	レポート		
	主体性	10 %	レポート、取組状況等		
	論理性	15 %	小テスト		
	国際感覚	5 %	レポート		
	協調性	5 %	プレゼンテーション		
	創造力	5 %	プレゼンテーション		
責任感	10 %	プレゼンテーション、取組状況等			
授業の展開					
1.	授業の内容、進め方と評価方法についての説明				
2.	火山活動と噴出物				
3.	火山災害と防災				
4.	地球大気の層構造と大循環				
5.	雲の発生と上昇気流				
6.	日本の気象と災害				
7.	海洋と海水の運動				
8.	大気と海洋の相互作用				
9.	太陽と月の日周運動と満ち欠け				
10.	太陽系の天体と特徴 (プレゼンテーション)				
11.	太陽の構造と活動				
12.	惑星の運動とケプラーの法則				
13.	恒星の性質と進化				
14.	宇宙の進化とビッグバン				

15.	北海道の雪氷と温泉の科学					
授業外学修について	<p>(予習) 事前に授業で使用する資料を配付するので、疑問点や重要語句を調べておくこと。 (復習) 興味を持った内容について、文献や Web ページを調べ、授業に追加される内容を振り返りに記入すること。いて、文献にあたって調べ、レポートにまとめる。 (プレゼンテーション) 太陽系の天体について、グループや個人で調べたことをもとにプレゼンテーションを行う。 (レポート) 地球温暖化について、文献等にあたりレポートを作成する。</p>					
教科書	特に指定しない。					
参考文献	視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録 (数研出版)					
試験等の実施	定期試験	再試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○	○
成績評価の割合	0 %		50 %	20 %	20 %	10 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)</p>					
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<p>【小テスト】 毎回の授業の最後に示す小テストの問題について、ポータルの振り返りに答えを記入する。</p> <p>【レポート】 地球の温暖化について、レポートを課す。評価は事前に示すルーブリックを用いて行う。</p> <p>【プレゼンテーション】 太陽系の天体について、グループや個人でプレゼンテーションを行う。</p> <p>【取組状況等】 授業内容について調べたことをポータルに基縫うする。記入された内容や回数により取組状況を評価する。</p> <p>地学概論 1 と地学概論 2 を合わせて地学の全領域を学ぶことになるので、連続して履修することが望ましい。</p>					

(地学概論 2)